

就農事例紹介シート

広島県立沼南高等学校卒業 傍田隼平さん(三良坂ピオーネ生産組合)



傍田隼平さん(21歳)は、広島県立沼南高等学校園芸デザイン科を卒業後、平成29年3月に県立農業技術大学校落葉果樹コースを卒業し、4月から三次市三良坂町の農事組合法人三良坂ピオーネ生産組合に就職就農しました。沼南高等学校園芸デザイン科では園芸技術類型に所属し、果樹や野菜の栽培、食品製造等について学びました。農事組合法人三良坂ピオーネ生産組合では、沼南高校で学んだ園芸の知識と技術を生かし、ピオーネを中心としたブドウの生産に意欲的に取り組んでおり、将来が期待されています。

〇傍田隼平さんの就農までの道

農業高校
(沼南高等学校)

県立農業技術大学校
(落葉果樹コース)

就農
(三良坂ピオーネ生産組合)

農業高校に入学しようと思ったキッカケは？

高校入学まで農業経験はほとんどありませんでした。中学の担任の先生から「沼南高校でブドウづくりを勉強してみんか」と声をかけていただき、高校の体験入学に参加して自分が高校生活を送るのはここだと決めました。果樹や野菜の栽培、食品製造を実践的に学ぶ沼南高等学校園芸デザイン科へ進学を決めました。

高校で学んだことは？

沼南高等学校園芸デザイン科に入学し、野菜栽培や果樹栽培の基礎を学びました。2年次から園芸技術類型を専攻し、ブドウの栽培技術の向上や活用を学びました。農業クラブ活動で中心的な立場で活発に行事に参加し、3年次には農業クラブ会長を務め、指導性・社会性を身に付けました。また全国大会にも参加しました。3年次の課題研究(ブドウ班)では「高品質ブドウの生産を目指して「～沼南高校産ゴルビーの歴史を変える男たち～」と題して、ブドウの品質向上について研究しました。

沼南高校園芸デザイン科での学習を通して、ブドウ栽培に関する基本的な知識・技術はもとより忍耐力・集中力・創造性などの力や、仲間の大切さを学ぶことができました。

今の仕事の中でやりがいを感じることは？

- ・ブドウの「みらさかブランド」に誇りをもって栽培に携われる。
- ・ブドウの木「1本1本に違う顔」があることが少しずつ分かってきたこと。
- ・「後々のことを考えながら作業すべし」ということを実感しながら、作業をできるようになったこと。
- ・新しいことに挑戦できていること。



農事組合法人三良坂ピオーネ生産組合(三次市三良坂町)は、昭和63年(1988年)設立されました。標高240m～300mの地でピオーネと安芸クイーンを露地と温室で栽培されています。農事組合法人の協業の精神にのっとった経営がされており、リーダーが引っ張るのではなく、組合員の協議のうえで経営を進めておられます。後継者全員が20代とのことです。「瞳の輝き」をピオーネの商標として登録されたり、直売所を運営されたりするなど先進的な取り組みをされています。